

令和元年第3回大崎市議会定例会一般質問発言通告書

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
1	9	佐藤講英	<p>1 学力の底上げについて</p> <p>(1) 全国学力・学習状況調査の調査結果について</p> <p>ア 小学校や中学校国語・算数・英語の本市平均正答率について</p> <p>イ 授業評価シートにおける学力向上の取り組みの成果について</p> <p>ウ 問題の傾向から、児童生徒に求められている学力について</p> <p>エ 例年、ホームページに公表しているが遅いのではないか</p> <p>(2) 標準学力検査について</p> <p>ア 各学校の学力と児童の学習にどう生かされたか</p> <p>イ 全国学力・学習状況調査と何がどう違うのか</p> <p>(3) 学校、家庭、教育委員会が一体となり、家庭学習や授業改善に取り組む、学びの連携推進室等の設置について</p> <p>ア 本市の家庭学習時間の習慣と勉強時間についての所感</p> <p>(4) 学校図書充実と図書館の活用での学力向上について</p> <p>ア 本市の家庭では図書が幾らあるのか</p> <p>イ 家庭や図書館の連携で、家庭での図書習慣の育成について</p> <p>2 異常気象によるゲリラ豪雨対策について</p> <p>(1) 鳴子ダム上流における集中豪雨とダムの放流について</p> <p>ア 荒雄川や江合川の堤防越水は想定されているのか</p> <p>イ 本市における対策は</p> <p>(2) 鳴瀬川上流における集中豪雨と排水機関場の排水について</p> <p>3 財政健全化と市民要望について</p> <p>(1) 災害における財政的な備えについて</p> <p>(2) 経常収支比率の重要な意味は何か</p> <p>(3) 臨時財政対策債の累増はどのような影響を及ぼすと考えるか</p> <p>(4) 人口減少で歳入は必然的に減ると見るのか、また、高齢化に伴い社会給付の増に対する財源手当はされると見るのか</p> <p>(5) 自主財源の見通しについて</p>
2	21	富田文志	<p>1 道路の維持管理について</p> <p>(1) 市道の維持管理の不備による車両事故について</p> <p>ア 定例会の議案に公の建造物の管理の瑕疵に係る専決処分がほぼ毎回と言っていいほど報告されるが、そのことをどのように受けとめているのか伺う</p> <p>イ 破損箇所の把握ができていない場合の事故と、把握ができていても修理ができていない場合の事故では理由が違うと思うが、原因についてどのように分析してい</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
3	5	山口 壽	<p>るのか伺う</p> <p>ウ 市道パトロールは業者に委託するほかに郵便局との協 定で集配の職員が担うなど、他の事業所の協力も得て 行っているが十分ではないようだ。現状と課題につい て伺う</p> <p>エ 市道の維持管理に対する技術職員の不足が要因の一つ とも言われているが、技術職員の推移について伺う</p> <p>オ 市で対応している保険の内容について伺う</p> <p>(2) 道路関係事業費の本庁と支所の仕分けについて</p> <p>ア 予算計上の際の本庁と支所の仕分けの判断は、金額に よるものか路線によるものか、基準は何か伺う</p> <p>イ 支所予算で不足が出る場合には補正予算ということに なると思われるが、その場合、本庁建設課との協議に 一定の基準があるのか伺う</p> <p>(3) 縁石の除草と砂等の撤去について</p> <p>ア 集落内の縁石の除草や砂等の撤去は集落の清掃活動で 行われているが、集落間は路肩の除草と比べると縁石 の除草や砂等の撤去が行われていないと見受けられる が、どのようになっているのか伺う</p> <p>イ 予算の関係で業者委託できないが市民からの要望があ ればその都度対応していると聞くが、全ての要望に対 応できるのか、それとも優先順位を見て対応すること になるのか。現在要望があればどのような対応策をと っているのか伺う</p> <p>ウ 道路線上に業者委託している植栽管理場所があるが、 その前後の縁石部分は管理から外れているので荒れて いる様子が目立っている。植栽場所だけがきれいでも 逆効果ではないか伺う</p> <p>エ 集落間の縁石の除草や砂等の撤去は業者委託だけで なく地域の協力を得て市民協働として行うことも一つ の方法だと思うが、そのような取り組みについての考 えを伺う</p> <p>1 全ての市民が快適に活用できる公共施設を考えてはいいか か</p> <p>(1) 市所有施設（公共施設）の空調環境について、全ての 市民に対応できる環境がなされているのか、喫煙者と の分煙をどのように捉え、これから建設予定の市所有 施設を設計、施工していくのか、市の考えを伺う</p> <p>(2) 公共施設において、喫煙者にも環境をよくすることを 考えてみてはいいかがか</p> <p>2 大崎市における近年の鳥獣被害対策として、ジビエを推奨 し、国や県に呼びかける考えはないのか伺う</p> <p>(1) 近年の鳥獣被害件数と被害額は把握しているのか伺う</p> <p>(2) 実働隊の方も活動に限界があると思うが現状はどうか</p> <p>(3) ジビエの活用で経済効果もあると思うが、推奨する考 えはないのか伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
4	3	鹿野良太	<p>1 国道 347 号飯川周辺の渋滞対策について</p> <p>(1) 大崎市古川と加美町との大動脈とも言える国道で、朝夕通勤時に慢性的な渋滞が発生しているが、原因を伺う</p> <p>(2) 道路管理をしている県と連携して、早急な渋滞解消を求めるが、所見を伺う</p> <p>2 公立小中学校の学力・体力・コミュニケーション能力の現状と対策について</p> <p>(1) 今年度の学力テストの結果について、どのように受けとめているのか伺う。また、前年度の学力テストの結果を踏まえた対策について、どのような効果が認められたか伺う</p> <p>(2) 学校統廃合によりスクールバス通学がふえる中、児童生徒の体力の現状と対策を伺う</p> <p>(3) ICTが中心的に活用されている現代社会において、今こそコミュニケーション教育への取り組みが重要と考えるが、コミュニケーション能力の現状と対策を伺う</p> <p>3 市役所職員の能力開発について</p> <p>(1) 本年度新設された人財育成課の具体的な取り組みと進捗状況を伺う</p> <p>(2) 多様な知識や考え方を学ぶことを目的として、サバティカルを含めた、他職業との交流・研修の必要性について所見を伺う</p> <p>(3) 企業においてCX（顧客体験）を高めるためには、EX（従業員体験）を高めることが経営戦略上常識となっているが、本市におけるEXを高める取り組みと成果を伺う</p>
5	20	相澤孝弘	<p>1 どうーするの人口減少、少子高齢化問題</p> <p>(1) 将来人口推計から考える大崎市の未来について</p> <p>ア 国立社会保障・人口問題研究所の示す数値を参考にし、どのように行政政策に反映させていくのか</p> <p>(2) おおさき市地方創生総合戦略基本目標について</p> <p>ア 基本目標に掲げる事業に取り組む中で、最優先と考える事業はどのようなものか</p> <p>イ 10年後の大崎市をどのようにイメージしているのか</p> <p>2 防犯・監視カメラの設置について</p> <p>(1) 安心・安全な地域社会の構築には、防犯監視カメラを早期に市内各所に設置する必要があると考えるが</p> <p>3 塚目駅再整備と志田踏切拡幅整備について</p> <p>(1) 地域の要望から相当の年月が経過する。JRや関係機関との協議状況と今後の見通しについて</p>
6	18	遊佐辰雄	<p>1 「家族農業の 10 年」の具体化策を示すべきではないか</p> <p>(1) 家族農業、小規模農業を守る具体策を示し、実現させるべきではないか</p> <p>2 イノシシ・熊等の被害対策について</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
7	28	佐藤 勝	<p>(1) ふえ続けているイノシン・熊等の被害をなくす抜本的な対策を強化すべきではないか</p> <p>1 伊藤市政の喫緊の行政課題の施策展開はこうありたい、そしてこうすべき</p> <p>(1) おおさき市地方創生総合戦略の2年延長に伴う評価指標について</p> <p>ア 平成30年度交付金事業はどんな効果があったか。例えば大崎の宝探し事業の4項目について、湯治文化ビジネス創造事業はどう検証したか。また、推進委員会の意見はどのようで、本部会議でどう結論づけていくのか</p> <p>イ 重要業績評価指標の低い施策の要因を分析し、その指標に近づけるための見直しをどう解しているか</p> <p>ウ 指標の再設定についての基本的な考えは</p> <p>(2) 小学校跡地等の利活用が地域活性化を生み出す行政の役割</p> <p>ア 小学校の統合により廃校となった利活用のまとめが、市長に報告された地域が2つと聞いている。これまでは地域主導で行政が一步引いた形でよかったが、利活用の目的が決定した地域は行政と教育部局が一体となったシステムを構築し、市民協働推進部が中心となって成功事例のモデルになるよう導くことが、合併以来、地域にとっては最大課題であると思うが、市はその認識を持っているか。それをどう地域振興の核として、七色の虹を住民と行政が協働で地方創生ふるさと版としてどう描き、取り組むか（教育部局との兼務発令や地域担当制等々）</p> <p>イ 旧鹿島台第二小学校の最終報告書の検討状況を見ると、平成28年4月設立から平成30年11月の最終報告書まで2カ年半、四十数回の委員会を開催。市民協働の原点と思う。これに行政は最大の応えをしなければと思うが、民間事業者の応募がなかったときはどうする考えか</p> <p>(3) 第2期行政改革大綱と来年度からの第5次集中改革プランの取り組みと、庁内体制をどう整備するか</p> <p>ア 伊藤市政は4期目。どうしても組織が硬直化することは否めない事実として捉えなければならない。それが名を変えての人財育成課の第一歩と思うが、これまで硬直化防止にどう意を用いたか。そしてこれからはどうするのか。また人材育成方針の見直しは、なぜトラウマになっているのか</p> <p>イ 合併後、当時の関東自動車工業（株）に職員派遣をしたことが業務改善にどう活かされてきたのか。市の業務改善のこれからは</p> <p>ウ 職員の意識改革が、最少の費用で市民に最大の便益を提供するさらなるシステムの構築はどう考えているか</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
8	12	相澤久義	<p>1 財政見直しと新市建設計画事業見直しの考えは</p> <p>(1) 財政見直しについて</p> <p>ア 少子化による生産人口等の減少により、10年後の市税の確保のため、次世代に負担を少なくするため、我々年代は80歳まで現役で働き続けなければならないのではないのか</p> <p>(2) 財政調整基金が10年後には9億6,300万円の見込みであり、有事時等大丈夫か伺う</p> <p>(3) 市道等の維持補修・老朽化施設等の改修事業等、行政サービスが低下するのではないのか</p> <p>(4) 新庁舎建設など事業縮小の考えはないのか</p> <p>2 国道4号、米袋地区交差点付近の朝夕の交通渋滞解消策は</p> <p>(1) 新幹線東線開通により、国道4号の米袋地区交差点付近の朝夕の交通渋滞解消策は</p> <p>(2) 国道108号東回りバイパス進捗状況と今後の計画</p> <p>(3) 議会報告・意見交換会で、交通渋滞解消に多田川に橋をかけ三本木地域の市道牛沼線に結ぶよう要望があった。考えを伺う</p> <p>3 小学校統合後の跡地利用について</p> <p>(1) 岩出山地域の小学校の跡地利用の考え方</p> <p>(2) 利活用に対しての地域の声は</p> <p>(3) 色麻小学校・加美町広原小学校跡地を宅地分譲した。地元に住宅を建てる場所がなく、色麻のほうに住宅を求め転出した家族がいる。池月・下野目小学校跡地はJRの駅にも近く、プールつきの体育館を有料室内遊園地、放課後児童クラブ等に活用し、宅地分譲販売してはどうか。子育て世代には最適と思う。地域振興・人口増加策と思うが、伺う</p> <p>4 災害時の障害児・者の福祉避難所との連携について</p> <p>(1) 災害時の福祉避難所としての締結施設数、受入人数は</p> <p>(2) 避難設備等の資材・物資等は配置されているのか</p> <p>(3) 福祉避難所への市職員の配置等支援体制は</p>
9	24	氏家善男	<p>1 投票率向上対策について</p> <p>(1) 共通投票所開設の考え</p> <p>(2) 期日前投票所を多く設置することについて</p> <p>2 農林業系廃棄物の処理について</p> <p>(1) 試験焼却終了につき、今後の処理計画について</p> <p>3 農業政策について</p> <p>(1) 本市の中核農家支援について</p> <p>ア 機械導入等における作付面積基準及び中山間地における基準緩和について</p> <p>(2) 多面的機能支払交付金事業について</p> <p>ア 交付団体の推移について</p> <p>イ 提出書類の簡素化</p> <p>ウ 獣医師による県産和牛のDNA不一致問題について、本市畜産農家への影響</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
10	27	小沢和悦	<p>1 放射能汚染廃棄物処理方法について</p> <p>(1) 試験焼却と「これから」について</p> <p>2 災害に強いまちづくりについて</p> <p>(1) 鹿島台二線堤バイパス高架橋工事のおくれと対策</p> <p>(2) 小川橋サイフォン機能アップによる冠水解消</p> <p>(3) 災害発生時避難の障害になりかねない狭隘な小川橋と市道の拡幅</p> <p>(4) 豪雨の際に、大崎市内河川氾濫原因になる可能性のある支障木の早急な伐採撤去</p> <p>3 「道の駅おおさき」に対する評判と対策について</p> <p>(1) 「売り場面積が狭過ぎる」、「子どもたちを遊ばせるスペースがあれば」等の市民の声を受けとめ、改善することについて</p> <p>4 若者の移住定住促進策について</p> <p>(1) 「賃金格差」、「魅力ある施設（文化・スポーツ）がない」という若者の声をどう捉え、対応すべきか</p> <p>(2) 大崎市の長期構想と総合計画のあり方</p> <p>5 水道料金の引き下げについて</p> <p>(1) 覚書変更による県水入水料金引き下げとの関係</p>
11	8	八木吉夫	<p>1 財政について</p> <p>(1) 財政見通しが発表されたが、10年後に財政破綻に陥らないために、今からできることは何か、具体的な所見を伺う</p> <p>2 雇用の促進と産業振興について</p> <p>(1) 業界では人材不足が著しい状況である。高校卒業後の専門知識技術等の習得の場である専門学校は仙台に集中してあるが、地元の大崎にあれば雇用の拡充にもつながり、産業全体の底上げにもなると思うが、所見を伺う</p> <p>3 再生可能エネルギーについて</p> <p>(1) 小水力発電等の再生可能エネルギーに対する取り組みで、地産地消をどのように捉えているのか、所見を伺う</p>
12	13	鎌内つぎ子	<p>1 安心して子育てでき、住みやすいまちづくりについて</p> <p>(1) 学童保育及び児童館の充実</p> <p>ア どの子ども、希望すれば入れる学童保育及び児童館を</p> <p>(2) 「幼保無償化」に当たって、保育園の給食費負担について</p> <p>ア 副食材費が公的給付の対象から外れるが、今までどおり保護者の負担軽減を図るべき</p> <p>(3) 遊べる施設、公園の設置を</p> <p>ア 公園が少ない。走り回ることができる場所、安全に遊べる場所として公園の設置を</p> <p>(4) 病児保育の充実</p> <p>ア 気楽に預けられる病児保育を。民間が多く、公立でできないのか</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
13	2	伊勢健一	<p>(5) 不妊治療の窓口の相談 ア 仙台に行かなくても相談できる体制を</p> <p>(6) インフルエンザなど予防接種の無料化 ア 栗原市では助成している。定住策や人口減少の現状を考えると、無料化すべき</p> <p>(7) 地下道など通学路の安全対策 ア 防犯のことも考えて検討できないか</p> <p>(8) 子育て支援センターの充実 ア 知り合いがないので、預ける時間帯を延長できないか、という要望があるが、どうか</p> <p>(9) 産後ケア事業の充実 ア 心のサポートが必要と思うが、どうか</p> <p>1 第40回「北方領土の日」宮城県大崎集会へ向けた取り組みについて</p> <p>(1) これまでの北方領土返還要求運動における本市の取り組み</p> <p>(2) 第40回「北方領土の日」宮城県大崎集会へ向けた取り組み</p> <p>(3) 小中学校における領土教育における取り組みについて</p> <p>2 自主防災組織・防災教育について</p> <p>(1) 自主防災組織の連合組織の結成に向けた取り組み</p> <p>(2) 自主防災組織の連携した取り組み</p> <p>(3) 小中学校における防災教育の取り組み</p> <p>3 観光政策について</p> <p>(1) これまでの各種公共交通機関との連携状況</p> <p>(2) 仙台空港との連携</p> <p>(3) インバウンド対策</p> <p>4 大崎市民病院本院内保育所の運営状況について</p> <p>(1) 大崎市民病院本院内保育所の運営状況</p> <p>(2) 大崎市民病院本院内保育所の運営の課題</p> <p>(3) 課題解決へ向けた取り組み</p>
14	25	山村康治	<p>1 誇りある農業の構築について</p> <p>(1) 農業次世代人材投資事業の国の2019年度予算が前年度に比べ12%、20億円以上減額との報道があるが、本市への影響をどう捉えているのか現状と対策を伺う。 また、大崎市独自の就農チャレンジ支援金受給者の活動状況と推進策を伺う</p> <p>(2) 大崎地域が世界農業遺産認定から間もなく2年、今年度は米の認証制度を始めたが、持続的農業の推進や生物多様性配慮を掲げるなら環境保全型農業の一層の推進を図るべきと思うが、環境保全型農業直接支払交付金の現状と今後の普及拡大策を伺う。同様に中山間地域等直接支払についても伺う</p> <p>(3) 「有機農業と地域振興を考える自治体ネットワーク」に、現時点で8県と17市町が参加している。その中に宮城県は入っているが、世界農業遺産に認定された大</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
15	10	佐藤弘樹	<p>崎地域の市町は入っていない。環境保全型農業や有機農業の普及拡大を図るためにネットワークに加入すべきと思うが、所見を伺う</p> <p>(4) 豚コレラ対策について</p> <p>ア 昨年9月に岐阜県で感染を確認以来、いまだに沈静化の兆しが見えていない。市内の養豚農家も大変不安な状況にあるが、家畜伝染病発生時の市の対応マニュアルは作成されているのか伺う</p> <p>イ 豚コレラ予防としてのワクチン接種に慎重な意見がある一方で容認の声もあるが、ワクチン接種に対する市の考えを伺う</p> <p>ウ 野生イノシシが感染源となっていることから、国では全国の養豚場に対し野生イノシシ等の侵入防止柵設置を義務づけたが、養豚農家にとって防止柵設置費用は大きな負担になる。負担軽減に対する支援策を早急に講ずるべきと思うが、市の見解を伺う</p> <p>1 「おおさき市地方創生総合戦略」の検証と成果について</p> <p>(1) これまでの各施設の評価検証や重要業績評価指標（KPI）の結果から、今後の人口減少対策や地域活性化等にどう取り組んでいくのか。なお、若手職員による事業検証や新規事業検討も人材育成の観点から必要ではないか</p> <p>2 防災士育成と防災力の向上について</p> <p>(1) 愛媛県松山市では、防災士の育成・活動・連携に対し防災力向上のために積極的な支援を行っている。本市でも委託での防災士派遣に取り組んでいるが、先進地のような支援策を導入し有事の際の地域防災に努めるべきではないか</p> <p>3 学校支援コーディネーターの役割と現況について</p> <p>(1) 学び支援コーディネーターの活動状況と、各地域での学校支援地域本部体制（地域コーディネーター・学校支援ボランティア）の現況はどうか。市内全域での学校支援のあり方についての考えは</p> <p>4 市内学校・公園・公共施設等への遊具設置について</p> <p>(1) 各学校・公園の遊具は老朽化により次々と撤去されている現状であるが、更新の見通しがほぼ立っていない。近隣住民や子育て世代からも新たな設置を望む声があるが、整備計画策定等の考えはどうか。また、道の駅おおさきへの増設や新鳴子総合支所庁舎への設置の考えは</p> <p>5 公民館へのWi-Fi環境整備について</p> <p>(1) 公民館利用者のニーズや各種団体活動のサポートの意味でも、誰でもインターネットを利用・活用できる環境整備は、もはや当たり前のことだと考えられる。まずは、基幹公民館から順次Wi-Fi環境整備を進めるべきだと思うが考えは</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
16	22	山田和明	<p>1 大崎市公共施設等総合管理計画について</p> <p>(1) 大崎市公共施設等総合管理計画の取り組み状況について</p> <p>(2) 人口減少は避けられず、施設の集約が難しい中でスポンジ化する現状とどう向き合っていくのか</p> <p>(3) 公共施設の照明器具をLED化にすることについて</p> <p>(4) 公共施設等管理計画の進捗状況がわかる「見える課」への取り組みについて</p> <p>2 障がい児・者福祉の充実について</p> <p>(1) 放課後デイサービス事業所の設置について</p> <p>(2) 各計画での高次脳機能障害者への対応について</p> <p>(3) 高次脳機能障害者やその家族が円滑に支援を受けられる体制づくりについて</p> <p>3 高齢者雇用対策について</p> <p>(1) 高齢者が安心して働く環境整備について</p> <p>(2) 例えば、シルバー人材センターの会員は古川に集中していると思うが、高齢者雇用の古川一極集中の是正について伺う</p> <p>4 魅力ある公園の整備について</p> <p>(1) 子供たちが喜んで遊ぶ公園の整備について</p> <p>(2) 公園の使用禁止中の遊具の再整備について</p> <p>(3) 公園内に魅力的な複合遊具の整備について</p>
17	16	横山悦子	<p>1 少子化対策における子育て支援の充実について</p> <p>(1) 夏休みの長期期間中、学童保育でも「給食を提供してほしい」という保護者の要望への対応について</p> <p>(2) 不妊治療への本市の助成と、今後の取り組む姿勢について</p> <p>(3) ダウン症検査の助成について</p> <p>(4) 「液体ミルク」を災害時に必要な物資として災害備蓄に</p> <p>2 住みよいまちづくりとバリアフリー化について</p> <p>(1) 市民からの要望である大崎市民会館へのエレベーターと手すりの設置について</p> <p>(2) 全国こけし祭りの会場となっている鳴子小学校体育館の洋式トイレの増設と改修について</p> <p>(3) 大崎市全体のバリアフリー化の見直しについて</p>
18	11	中鉢和二郎	<p>1 子ども医療費助成に係る所得制限撤廃について</p> <p>(1) 子ども医療費助成の政策目標が、福祉としての所得再配分からスタートしたとしても、時代の変化の中で、現在の人口減少社会においては、少子化対策、子育て支援策に政策目標が変化していると考えられる。その変化を柔軟に受け入れ、人口減少という歴史上経験のない大きな社会問題への対策と政策目標を置きかえ、所得制限は撤廃すべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>2 産後ケア事業について</p> <p>(1) 本市においては、出産前後を対象とした出産育児ヘル</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
19	23	後藤錦信	<p>プ養育支援事業を展開しているが、産後ケア事業に対するニーズも高い。社会問題化している人口減少、少子化に対する対策として、産後ケア事業を導入すべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>3 公園，遊具等の子どもの遊び場整備について</p> <p>(1) 「公園」の必要性が子育て世代から強く訴えられているが，児童公園（街区公園）や児童遊園の整備について，所見を伺う</p> <p>1 世界農業遺産アクションプランの取り組みに向けて</p> <p>(1) 大崎耕土の多様な地域資源を生かした周遊ルートづくりについて</p> <p>ア 大崎耕土の河川，用水路，農道，いぐね等を生かしたウォーキング，サイクリングルート等の設定について</p> <p>2 都市交流事業の進化について</p> <p>(1) 姉妹都市台東区，交流都市港南区とのさらなる都市交流の取り組みについて</p> <p>3 大崎っ子はぐくみ事業について</p> <p>(1) 健康，体力を育む取り組みにおけるスキー場を活用した冬季スポーツの実施について</p>
20	6	佐藤仁一郎	<p>1 三本木パークゴルフ場の整備状況について</p> <p>(1) 暫定オープンが予定されているコースの整備状況を伺う</p> <p>(2) 暫定・全面オープンの時期について伺う</p> <p>2 事業用太陽光パネル設置における自然環境保全と防災対策について伺う</p> <p>(1) 事業用太陽光パネルの設置について，管理状況の定期報告を義務づけてはどうか</p> <p>(2) 維持管理状況や撤去費用の確保状況について，毎年度の報告を義務づけてはどうか</p> <p>(3) 事業用発電パネル税を創設する考えはないか</p> <p>3 持続可能なまちづくりと地域の活性化について</p> <p>(1) 「地域自治体制整備実証事業」実施団体支援への庁内連携・支援体制をどう構築していくのか，その方向性について伺う</p> <p>(2) 実証事業の評価・検証，事業終了後の支援のあり方，方向性を伺う</p>
21	26	木内知子	<p>1 実効性のある婚活支援のあり方について</p> <p>(1) おおさき婚活支援センター休止後の対応について</p> <p>(2) サポーターの皆さんの活動について</p> <p>2 補聴器への公的助成について</p> <p>(1) 高齢者の補聴器購入への助成を，認知症予防の視点からも考え実施すべきではないか</p> <p>(2) 市の総合健診に聴力検査を盛り込んでどうか</p> <p>3 投票所削減による低投票率への影響改善について</p> <p>(1) 投票所の減少による低投票率への影響の検証は行って</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
22	4	山口文博	<p>いるのか、その結果は</p> <p>(2) 改善策を考えるべきではないか</p> <p>4 東部新斎場建設における市民が公平に福祉を享受できることについて</p> <p>(1) 市民が偏重なく住民福祉や利便性を受けられることについての本市の考えについて</p> <p>1 鹿島台地域の国道 346 号二線堤バイパスについて</p> <p>(1) 内ノ浦地区より吉田川堤防までの約 1.5 キロメートル未完の施工について伺う</p> <p>ア 昭和 61 年 8 月 5 日の吉田川の決壊・氾濫による水害対策とし、二線堤を築堤して市街地を水害から守るため二線堤バイパスが計画実施された。されど、もう一つの計画である水害地区への避難・救援や復旧活動に利用される高架橋等が未完のままである。そこで、市として事業者の宮城県に、施工について協議を行っているのか伺う</p> <p>イ 現在の国道に志田谷地 1 号線から進入するには、小川橋に接した丁字路だが小川橋の幅員が狭く変形していて見えにくいので、毎年事故が起こる危険な道路である。そこで、市民の安全のためにも二線堤バイパスの計画設計では改善があるのか伺う</p> <p>(2) 完成した区間の築堤管理（草刈り）について伺う</p> <p>2 大崎市内の小学校統合について</p> <p>(1) 旧鹿島台第二小学校利活用について伺う</p> <p>ア 平成 30 年 11 月 1 日に最終報告書が提出されているが、その後、運営団体や民間の参入について伺う</p> <p>イ 平成 28 年 3 月から 3 年 6 カ月間も管理の悪い状態が続いた。そこで、校舎の現状について伺う</p> <p>(2) 少子化が進むと廃校になる小学校がふえる。そこで、廃校の利活用を専門に行うプロジェクト室を新設してはどうか伺う</p> <p>ア 廃校となった小学校は、維持管理経費がかかる。そこで経費削減のためにも、また、長期になると校舎の状態が悪くなり資産価値が下がるので、早期に利活用を計画実施する必要があると思うが伺う</p> <p>イ 廃校地域は、特色があるため利用条件が異なる。そこで、特色を生かした利活用に対応できる専門職が必要ではないか伺う</p> <p>3 骨髄移植ドナー支援事業について</p> <p>(1) 骨髄・末梢血幹細胞の提供者（ドナー）の助成金について伺う</p> <p>ア 昨年の第 3 回定例会において、骨髄・末梢血幹細胞の提供者登録の増加や移植の推進を図るため、助成金交付について伺ったところ、本市においても骨髄移植の推進を目指して情報を収集しているとの答弁があったが、どのような結論になったか伺う</p>	

